

高等学校の「ライティング」の指導方法

京極 昌三

はじめに

2003(平成15)年度から高等学校で実施されている新学習指導要領に準拠して、英語科の科目であるライティングについて詳しく説明しよう。学習指導要領の外国語科の目標には、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。」(高等学校)と記述されている。⁽¹⁾

1 コミュニケーションとは一体何を意味するか

コミュニケーションとは会話であると誤解している人が多いけれど、会話はコミュニケーションのほんの一部にすぎないことをまず確認しておいてほしい。コミュニケーションは、日本語で言えば意志疎通ということであり、それには、言語を使つてのコミュニケーション(verbal communication)と非言語コミュニケーション(nonverbal communication)の二つがある。writingは前者に属す技能の活動である。

学習指導要領のライティングが英語のwritingとなっていないのは、科目登録の作業で文部科学省が他教科の科目と一定の整合性を図るために、カタカナのライティングとしている点を言い添えておきたいことと、本節では紙面の関係でnonverbal communicationについては言及しない点も了承していただきたい。

2 ライティングの指導内容と程度

verbal communicationとしてのhearingとreadingは受け入れる活動(receptive activities)に対して、speakingとwritingは作り出す活動(productive activities)である。

日本文を英文にすること(いわゆる和文英訳)だけがwritingではない。究極的には、文法的に正しい英語で書ける能力は言うまでもなく、自分の考えや感情をよりよい英文で書ける(自己表現能力)という英作文能力を身につけることが大切である。

この科目について学習指導要領には、次のような目標が書かれている。⁽¹⁾

「情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」

まず、学習指導要領に触れる前に、スベリングが書けるというwritingの最も基礎的で最も容易な段階から順を追って最も高度な段階までの指導/学習の進め方を説明していきたい。

(1) 書き写し (copying)

書かれているものをまちがいをなく書き写せるかどうか — まず、紙面の両端には余白(margin)を取ることや印刷物から自分なりにハンドライティングで書き写すとき、行末で自分勝手に単語を切らないこと等、諸注意が必要である。要するに、この段階では、将来の着実な向上を目指すために、writing formの礎をしっかりとっておく指導が必要である。

(2) 口述書き取り (dictation)

聴くことがらをそのまま忠実に書けるかどうか — 話される発音を聴き、それを文字にする能力である。この作業の練習としては、次のように指導するのが最も望ましい。1. まずよく聴いてその内容を理解させ、2. 文意を損ねないように注意しながら、書ける速さでゆっくりと聴かせつつ、書かせ、3. 書いたものを訂正できるようにもう1度同じものを聴かせるという指導である。

(3) 制御された作文 (controlled or guided writing)

一定の条件を与えて、あとは自由に書かせる指導

であり、その条件を幾つか列挙すると次のようなものがある。

1. 既習の単語や熟語を使って、単文を書かせる。
2. ある英文の passage を与えて、述語動詞の時制を変えるよう指示し全文を書き直させる。
3. ある英文の passage を与えて、主語の名詞(代名詞)の数を増やすよう指示し全文を書き直させる。
4. ある英文を聴き取って、それを要約した英文を書かせる。
5. ある英文を読み取って、要点を落とさないように概要を書かせる。
6. ある日本語を聴き取って、要点をつかみ英文で summary writing させる。
7. ある日本語の概要を読み取って、要点をつかみ英文で summary writing させる。
8. 絵や写真等を見て、感想や印象を書かせる。
9. 仮の pen pal を決めて、英語の手紙を書かせる。
10. あるテーマを与えて、それについて自分の意見等を書かせる。
11. その他、生徒各自が自由にテーマを決め、自由に書かせる (free composition)。しいて条件と言えば、紙数や時間制限ぐらいである。

(4) 日本語の英訳 (translation into English)

(3)の controlled writing の最たるものである。日本語の長短はあっても、すべて英語に翻訳させる。これは日本の文化に精通していて、しかも翻訳しようとする英語圏の文化にもある程度精通していなければ、適切な翻訳はできないので、この作業がいはん難しい技能であると言わざるをえない。

3 学習指導要領にあるこの科目の内容との関連内容について、次のように記述されている。⁽¹⁾

(1) 言語活動

生徒が情報や考えなどの送り手や受け手になるように具体的な言語の使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。

- ア. 聞いたり読んだりした内容について、場面や目的に応じて概要や要点を書く。
- イ. 聞いたり読んだりした内容について、自分の考えなどを整理して書く。
- ウ. 自分が伝えようとする内容を整理して、場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書く。

(2) 言語活動の取り扱い — 省略 —

(3) 言語材料 — 省略 —

このような各項目については、前述した 2 ライティングの指導内容と程度 のそれぞれの段階と関連づけられるであろう。さらに、聞くこと、話すことおよび読むこともとも有機的に関連づけた活動を行うことにより、書くことの効果を一層高めるには、次のようなカリキュラムの考え方も一助となるであろう。即ち、クラスのレベルに応じてあるテーマを設定し、まず、聴いて内容を把握させ、そのことについてスピーキング活動を行い、読む活動で認識を深めた後、ライティングをさせる。そして、次々と同様のサイクルを進めるのもひとつのやり方である。

4 添削指導について

生徒が書いたものを提出させた後の添削指導はやっかいなものである。クラスサイズにもかなり関連するが、添削指導をしなければ何の役にも立たないことは明白である。そこで、次に示すような記号を使うことを提案したい。

Symbols Or Signs To Check The Errors With

1. sp means “wrong spelling,” as in “He **remaned** there.”

sp

2. w means “improper word here,” as in “I was robbed **from** my wallet.”

w

3. N means “number is wrong,” as in “**many** furnitures ...”

N

4. U means “usage is wrong,” as in “... an **excited** game.”

U

5. O means “Omit this part,” as in “As soon as he **had** left the house, it began to rain.”

O

6. ts means “wrong tense,” as in “She **has gone** yesterday.”

ts

7. p means “A punctuation mark is necessary,” as in “He is so to speak a walking dictionary.”

p p

8. C means "Capitalization" as in "tokyo station..."
C


9. sm means "The initial letter should be small," as in "He likes to eat Potatoes."
sm


10. Pas means "Passive voice is better," as in "A traffic accident killed my dog."
Pas

11. Act means "Active voice is better," as in "The book was read by her."
Act

12. Exp means "Expression should be renewed," as in "The bus took us to Sendai."
Exp

→ "We went to Sendai by bus."

13.  means "non-agreement" as in "Father take a walk..."

14.  means "wrong word order" as in "pretty something"

15. ^ means "Insertion is necessary," as in "Tom got early every morning."
^

16. ? means "Impossible to understand," as in "I will hear the sight enjoying the summer vacation in mind."
?

mer vacation in mind."

5 指導の展開

- 1) 1年間の最初の授業時に、上記の添削記号のプリントを配布し、説明後、そのプリントをいつでも使えるように各自保管しておくように指導する。
- 2) 課題を出し、授業時間内に先の2ライティングの指導内容と程度で述べた注意事項を確認し、実際にライティングさせ提出させる。
- 3) 生徒から提出されたものを、上記の添削記号を使って赤色で添削し、評価基準を決め各生徒の評価を書き留めておく。
- 4) 添削済みのものを、次回の授業で生徒各自にいったん返却し全文をrewriteするように指導、再度それを提出させ、再び評価をし書き留めておく。
- 5) このサイクルで、1年間とぎれなく指導する。
なお、上記の添削記号の中で最もしばしば使われるものは、1 2 3 4 5 6 12 13 14 15 であろう。

結論

- (a) ライティングは、4技能のひとつであり、他の3技能の指導と効果的に関連づけながら指導すべきことは言うまでもない。
- (b) 指導のプロセスで、スベリングをはじめ、文法上の誤りをことごとく訂正すべきか、それとも目だった誤りのみ訂正しながら分量をより多く書かせるかが課題となろう。Wilga M. Riversは、この点について *Teaching Foreign Language Skills* の中で次のように述べている。⁽²⁾

The inaccurate student will be penalized for his inaccuracy, but given credit for his ability to communicate his ideas in language which native speakers would use. The accurate student will be rewarded for his accuracy, but not necessarily graded at a high level if he is lacking in wider knowledge and finesse of expression.

注 学習指導要領には、「聴く」ではなく、「聞く」が使われている。ちなみに、『新総合国語辞典』（旺文社）によれば、「聞く」は、音を耳に感じる。ことばや音を知覚する(hear)。「聴く」は、くわしく聞く。注意して聞く(listen)と記されている。

参考文献

- (1) 学習指導要領(高等学校) — 文部科学省
- (2) Rivers, M. Wilga. *Teaching Foreign Language Skills*. The University of Chicago Press, 1970

(京都外国語大学教授)